

ねぎぼうず便い



学校法人
藍香学園 深谷大里看護専門学校

2013年1月
新年号 Vol.10

良い看護師になるために



学校法人藍香学園
深谷大里看護専門学校
学校長 大坪 公子

新年おめでとうございます。皆様幸せに満ちた明るい新年を迎えたことと思います。私たちは看護のスペシャリストを育てるために専門学校教育を行っています。学校は教職員全員の努力により、順調な運営を行っていることを報告します。

さて、今回は「看護」について考えてみたいと思います。看護は人間愛、生命の尊厳、人間尊重を基盤として成立するものであります。ですから看護をする人、すなわち看護師は患者さんとの良好な人間関係が確立できる人でなければなりません。命の尊さをよく理解し、患者さんをよく守ってあげられる人になる必要があります。「やさしい思いやりのあ

る心」の持ち主で、「豊かな教養」があり、「人に信頼される人間」になることがまず大切です。

看護は患者さんの健康上の問題を明らかにして、科学的根拠に基づいた援助をしていくも

のです。ですから看護学的・医学的知識が欠かすことのできないものです。私はいつも学生に「しっかり勉強して下さい。勉強して十分な知識を持たないと立派な看護師にはなれませんよ！」と言っています。専門家としての知識・科学的根拠に裏打ちされた行動でなければ、良い看護はできないのです。この学習は学生が主体的に自ら学び続けるものでなければなりません。学生は学ぶことに楽しみを見出し、自ら進んで学んでいくのです。毎年11月に3年生の行う「ケーススタディ発表」を聞いていると、自分から学ぶことにより、よい看護ができていく例がたくさんあり、とても嬉しく思います。人間は無限の可能性を持ち、学習によって成長していくのです。

看護は保健医療福祉チームの中で、他職種の役割を理解し、調整し、専門職として看護師の役割を果たします。看護師は医師、薬剤師、保健師、助産師、栄養士、その他非常に多くの職種の人たちとチームワークを組み、仕事をしていかなければなりません。広い心で患者さんや家族のことを考えて、正しい判断をその時にしていくのです。

私は優秀な看護師さんたちをたくさん知っています。その人たちは人格的に高潔であり、高い倫理観を持ち、仕事がよくできる人たちです。明るく元気に病院の中心になって働く人たちでいつも頼もしく思います。学生の皆様も自分をよく磨き努力してゆけば、いつかきっと素晴らしい看護師になるでしょう。私たちはこの学校で皆様が輝かしい将来に向かい進んでいけるようお手伝いを致します。みんなで頑張りましょう。

(短歌)

冬日和 学ぶ姿に 気魄あり 看護の道の 高く険しき

<公子>

体験入学

笑顔溢れる体験入学

—2012年7月30日、31日、8月3日、17日、24日— 2年 鹿野 ちづる



体験入学は本校の素晴らしさを知ってもらうことを目的に2年生が主体となり、校内の案内と模擬授業を行いました。模擬授業は血圧測定、フィジカルアセスメントモデルを用いた心音・呼吸音の聴取、衛生学的手洗いによるATP拭き取り検査を行いました。

高校生や社会人を前に説明することは初めての体験で、とても緊張しました。その中でも丁寧に案内し説明することで、見学者の方々の笑顔が溢れていました。体験後のアンケートでは、「楽しかった」「来て良かった」と好評の声を頂くことができました。5日間とい

う短い日程ではありましたが、自分達が経験している学校の魅力を生の声として、受験生に伝える良い機会となったのではないかと思います。2年生全員で模擬授業の企画・運営を行い協力したことで、無事に5日間を終えることができました。クラスの皆さん・先生方、ご協力ありがとうございました。新1年生の入学が楽しみです。



ケーススタディ発表会

ケーススタディ発表会を終えて

—2012年11月7日、8日— 3年 今津 優希



11月7・8日、私たち15回生はケーススタディ発表会を終えました。ケーススタディは1年間の領域別実習の学びの集大成であり、今後臨床の場で看護研究を行うにあたっての第1歩でもあります。初めての看護研究ということもあり、自分の看護をどうまとめればよいのか、どう表現すればより伝わりやすくなるのか迷い、何度も推敲を重ねてきました。発表会ではクラスメイトが行ってきた看護を知ることができ、とてもよい学びになりました。

1、2年生には私たちの学びを、実習のイメージ化や、これからの実習で自分の看護を行うための手がかりとしてほしいと思います。最後になりましたが、ご指導いただきました病棟の皆様、先生方、運営にご協力

いただきました1、2年生に感謝いたします。ありがとうございました。



事例研究に参加して

—2012年11月7日、8日— 1年 坂本 ありす



入学してから、8ヶ月間数々の科目を学んできた私たち1年生が、この日、改めて今までの学習に対するの必要性を感じました。スーツ姿で整然とした教室では、全学年の学生が資料を見ながら真剣に発表を聞いており、初めての参加となる1年生にとっては驚きの連続でした。どの事例も、具体的でとても分かりやすく、自分だったらこの患者さんに何ができるだろうと考えながら発表を聞かせていただきました。なぜ?から始まった研究は、理由とともに分析し実践されていました。その看護を文献を参考にし、科学的根拠に基づいて考察されていました。さらに、その研究に対して別の学生が質問を行い、新しい看護の視点が見出されていました。

基礎看護学実習Iを目前に控えている私たちは、実習に向けて自分の志を高め

るよい機会となりました。2年後、自分たちも先輩たちのような立派な発表ができるかとても不安ですが、「あんな風になりたい！」というこの気持ちを忘れずに、これからも頑張っていきたいと思います。



深谷市福祉健康まつり

地域の方と触れ合えた福祉健康祭り

—2012年10月27日— 2年 松永 憂美



私たち2年生は、深谷市で行われた福祉健康祭りに参加させていただき、普段触れ合う機会のない地域の方々と交流を図ることができました。今回はハンドマッサージ・ナースキャップ作り・赤ちゃん抱っこに分かれて参加しました。ハンドマッサージは順番待ちの長蛇の列ができ、急遽人員を増やして対応するほど大忙しでした。ナースキャップ作りは絵を描いたり、シールを貼ったりオリジナルのキャップ作りを通じて、子どもたちと楽しく触れ合うことができました。赤ちゃん抱っこは年配の方から「懐かしい」「こんな感じだったねえ」という言葉が聞かれ、赤ちゃんの人形を抱いて昔を懐かしむ様子がみられました。準備の時はどうしたら楽しんで

もらえるのか、上手くいくのか不安で一杯でしたが、当日は地域の方々の笑顔をたくさん見ることができ、参加して良かったと思いました。



秋の学生交流会

秋の交流会を終えて -2012年10月19日- 2年 井上 夏菜



交流会委員として、企画・運営活動から、貴重な体験をすることができました。秋の交流会の目的は、1年生は入学して半年が経ち仲間と協力することで、結束を深めること、2年生は領域別実習に向けての団結力を高め、心身ともにリフレッシュしてもらうこと、3年生は、残りの統合実習に向けて気分転換となることを目標とし、プチ運動会とお茶会を開催しました。プチ運動会では、しっぽ取りや〇〇食い競争など、日頃なかなか運動をする機会がないため、リフレッシュできる楽しい時間になったと思います。お茶会では、各学年が情報交換など、楽しく会話できるように十分な時間を取りました。1年生は、定期テストや初めての基礎看護学実習に対しての不安などを質問し、2・3年生からの経験を踏まえたアドバイスももらっていました。私達2年生も11月から始まる領域別実習の不安について、3年生から事前学習のこと等、丁寧にアドバイスを頂き参考になりました。各学生が積極的に参加することで楽しい会となりました。ご協力ありがとうございました。

笑顔あふれた交流会 -2012年10月19日- 1年 堀口 杏奈

1年生にとっては、初めての秋の交流会でした。私は、交流会係りとして先輩方と協力して計画・準備を行ってきました。少しでも身体を動かせるような機会があれば・・・と、今回の交流会は、缶積み競争、しっぽとりゲーム、何でも食い競争といった内容の「プチ運動会」に決定しました。交流会では、全学年合同で行い、チーム一丸となって一つの種目をやり遂げました。身体を動かすことによって、今まであまり見ることがない友達や先輩方の一面を見ることができ、体育館が皆の笑顔であふれた場所になっていました。交流を通して学んだことは、皆と協力して何かをやり遂げる大切さです。協力してやり遂げた後の達成感はとても素晴らしいことだと実感しました。来年も皆笑顔になり、リフレッシュできるような交流会にしたいと思います。



アルフォンス・デーケン先生特別講演

特別講演を聴いて -2012年10月12日- 3年 浅野 梨央



先日、「寄り添うところ ～死とどう向き合うか～」というテーマでアルフォンス・デーケン先生の講演を聴くことができました。私は、実習の中でターミナル期のA氏を受け持たせて頂いたことを思い出しました。日々看護する中で、状態が変化していくA氏に対してそばに寄り添い、手を握ったりするなどのタッチング、声かけを行いました。自分にできる精一杯のこととして、死を受け止めてくれる人がそばにいて、孤独感を感じることなく安心して死を迎えていただこうと、ずっとそばに寄り添い関わりました。私は死というものを生まれてから今まで身近に感じるものがなく、A氏が一瞬にして変化し亡くなる姿を前にし、頭の中ではなかなか受け入れることができませんでした。しかし、その後奥さんから「最後までそばにいてくれてありがとう。」と感謝の言葉をいただきました。講演の中で、先生から「いること (being)」が重要であると教えて頂きました。ターミナル期の患者、家族にとってそばに寄り添う看護が心の支えとなることを、A氏との関わりから学び、先生のお話を強く実感することができました。死とは必ず誰にでも訪れるもので避けられないというのが現実であるからこそ、看護者として死について考えることで、より良い看護を提供できるのだと感じました。

デーケン先生に学んだこと -2012年10月12日- 1年 高田 ひさ子

先生は幼いころに4歳の妹を白血病で亡くし、目の前で祖父を銃殺された経験から、「死」をいつも身近に感じていたそうです。現在は、死にゆく患者様の心理過程、そして残されたご家族の心の傷と回復の過程を数々研究されています。先生は、ご自身の体験を交えて流暢な日本語で講演してくださいました。講演の中で先生は、死に向かう人にとって大切なことを3つあげていました。1つ目はお金や物などへの執着をなくす「手放す心」、2つ目は変えることの出来ない過去を許し自分を寛大に変える「許す心」、そして3つ目は今までの人生や家族や友人への「感謝」だと教えていただきました。看護師は、患者様の心と身体の変化を支え、勇気を支える大切な役割を持ちます。これから沢山の学びと経験を通し、患者様に寄り添い、時には背中を押し、共に歩むことのできるパートナーになるのだと決意を新たにしました。そして、思いやりのあるユーモアを持って、微笑を忘れずに、心のそこまでジーンと温かくなるような看護を目指したいです。



2年課程通信制



基礎看護学実習Ⅱを終えて 2年課程通信制 飯島 恭子



4月に2年課程通信制に入学し、半年が過ぎました。自宅での学習に戸惑いや不安がある中、学習ガイドや面接授業を受け看護学生としての自覚が少しずつ大きくなってきました。そして、8月中旬には基礎看護学実習Ⅱがスタートしました。

私たち2年課程通信制の実習は、1科目につき5日間の短い実習です。そのうち3日間は学校での面接授業で後の2日間は臨地実習となります。1日目に学校でのオリエンテーションを受け、2日目、3日目は臨地実習ですが、2日間しかないため見学実習という形で自ら計画してケアを行うわけではありません。指導者さんの看護援助を見学させてもらい、できることは指導者さんと一緒にケアを行うという内容です。私は、整形・脳外科の混合病棟で実習をさせて頂きました。初めは、見学実習でどんなことが学べるのだろうと半信半疑でした。実習を終えて感じたことは、普段、自分が准看護師として勤務する中で行っている行動は正しいかどうか考えさせられました。いつも、患者さんの立場になって行動するよう心がけていますが、健康な私たちが思うほんの小さなことが、患者さんにとってはとても大きなことなのです。忙しく働いている看護師さんたちの気持ちもわかります。でも、それ以上に言いたいことが言えずにいる患者さんの気持ちが伝わってきました。

実習を通し客観的に見ることにより看護の場面の大切な部分が見えてきた気がします。また、3日間の面接授業では、実習グループごとに実習について発表したり、グループワークを通し様々な意見交換をし、共感したり自分とは違う意見を聞くことでこれまでの看護観を見つめ直すことができました。そして、先生方から何度も繰り返し出る「根拠」の重要性が納得できました。この経験を、これからの学習や実習に繋げていけたらと思います。2日間という短い実習でしたがとても有意義な実習でした。



国家試験まで残り1年 2年課程通信制 佐々木 トモ子

2年課程通信制の1回生として入学式を終えて、早くも1年が経とうとしています。学生気分を味わう間もなく、国家試験を意識して勉強をするようになりました。今年5月の面接授業で「今から国試勉強をやっておかなければ間に合わないよ」と先生に言われたことを思い出しました。その頃は2年間もあるからまだ大丈夫…くらいに考えていて、焦りや不安は現実のものではありませんでした。先日、「テコム基礎学力テスト」を1回生全員が行い、その後解説書が送付され自己採点后、自分の得意分野と苦手分野がハッキリ分かれていることに気づきました。この苦手分野をいかに克服できるかで命運が分かれてくると思いました。苦手な分野をいかに好きな分野にしていくのか…大変な事だと思います。けれど、私達は、自分の年齢を忘れて、働きながら学び国家試験に合格する事を誓ったのですから、多少の痛みと努力を惜しまず、乗り越えられる強い気持ちを持っていると信じています。臨地実習のスケジュールも着々と進みはじめ、月単位、週単位に多忙になっていく中で、自分なりに残り1年間の進行目標を計画して勉強していきたいと思います。時間に追われて勉強する時間が足りなくなって後悔することのない様に、そして、同じ境遇でがんばっている同期の仲間が居てくれる事を思いゴールに向かって日々努力して行かなくてはならないと改めて感じました。

2年課程通信制グループワークの様子

